

知能と学力って関係があるの？

知能検査を用いて測定した知能と学力の間には、どのような関係があるのでしょうか？ここでいう学力とは、教科の成績を中心とする、日本における旧来から学力を指しています。学習材料が教科書によってほぼ決められ、紙と鉛筆を用いたテストに終始する日本の学校教育においては、知能と学力の間には高い相関があるとされています。

古いデータにはなりますが、1957年、続はある中学で生徒に対し入学して以来毎年行われていた知能検査の結果と、各学年の生徒たちの学業成績との相関関係を調べました。この中学校では、ウェクスラー・ベルビュ式の知能検査を使用していました。

相関係数とは、2つの変数(この場合は知能と学力)の間の結びつきの強さを数字で示したもので、 -1 ～ $+1$ の範囲の値をとります。通常、 ± 0.4 以上相関があれば、2つの変数の間にはある程度の相関があり、 ± 0.6 以上あれば、強い相関があると解釈されます(相関係数についての詳しい説明は、『**知能と創造性って関係があるの？**』の項に載っています)。

続によると、知能検査の結果と学業成績の間には、 0.64 ～ 0.44 の高い正の相関がありました。さらに、知能と卒業時の基礎学力調査との間にも、 0.76 ～ 0.62 という高い正の相関が得られています。つまり、学力と知能のどちらかが高い＝よい成績だと、もう片方も高い値＝よい成績になりやすい、ということです。

このことから、日本における学力＝学校で習う教科の成績と、知能との間には高い関係があるといえるでしょう。